太宰府市短歌ポスト第百七期入選歌

（令和二年八月二十七日）

選者　大久保富士子

梅雨空の夏至の日に咲く梔子の濡れてし薫る坂本の宮
福岡市　斎藤真左樹

くまゼミの鳴き声響く太宰府に子の歓声も負けじと高く
福岡市　中山なつき

道真の衣預けし岩なれば彼の死を知るやせせらぎの音
筑紫野市　栗野由紀子

コロナ禍は今や国家の危機なりと菅公を頼り柏手を打つ
春日市　山本憲一

梅雨晴れの菅公の庭に蝉の鳴く　この世に生きし証しとばかり
粕屋郡　仲道朋子

外つ国の言の葉消えし参道に梅ヶ枝餅の焼く音聞こゆ
太宰府市　大穂敦子

絵馬に書く願いはひとつコロナウィルス早期収束
福岡市　白井道義

雑草（あらくさ）やいにしえの礎石腰おろし天拝山を手に乗せてみる
太宰府市　永留妙子

小、中学生の部

なつくればあせをかきかきだざいふはセミはないてはあつさもまけず
福岡市　中山なみ　九才